

勝利のキーワードは「赤」

JJ1SXA/池

勝利のキーワードは「赤」だと、動物行動学研究者・エッセイストの竹内久美子氏は述べている…実は、スポーツの試合では赤が有利であるという件について、こんな研究がある。イギリス、ダラム大学のR・ヒル氏らは2004年のアテネ五輪の際、赤または青のユニホームや防具をつけ、1対1で争う試合、4種について調べた。

ボクシング、テコンドー、レスリングのフリースタイルとグレコローマンスタイルについて、赤と青で勝率がどう違うかである。すると、2人の選手の力の差が大きいときには関係がなかったが、実力が伯仲していると大変な差となって表れた。4種を平均すると赤の勝率が62%に対し、青の勝率は38%だったのだ。

なぜこんなにも差があるのか、赤にはどんな効果があるのだろうか。実は赤とは男性ホルモンの代表格である、テストステロンのレベルの高さを物語るものなのだ。

…2人の選手の実力にあまり差がない場合には、赤を見せつけられた方はおじけづいてしまい、赤を身に着けている方は自信を持つ。その結果、勝敗に大きな影響が出てしまうのである。この話には続きがある。ドイツ、ウェストファーレン・ウィルヘルム大学のN・ハーゲマン氏らは、テコンドーのベテラン審判42人に、実力の伯仲している5選手が対戦する試合の動画を見せ採点してもらった。すると案の定、赤の選手が高い点数を与えられる傾向があった。そこで今度は動画にデジタル処理を施し、赤を青に、青を赤に変え、もう一度採点してもらった。すると、どうなったか。青から赤へ変化した選手は点数がアップしたのである。まったく同じ動きをしているにもかかわらず、赤を着ているだけでよい評価を得てしまったのだ。ベテラン審判までもが赤の効果にだまされていたのである。…

赤は勝負の色であることは事実のようで、川口順子元環境相・外相は、今日は勝負服ですと、赤いドレスを着て国会に臨んでいたし、トランプ米大統領は赤のネクタイで選挙戦を戦い勝利した。

昔から運動会では赤ハチマキ組と白ハチマキ組が争い、応援団は赤勝て、白勝てと熱狂するが、この勝率はどうなんだろう？

また年末にNHKが行う紅白歌合戦の勝率はどうなんだろう？ 去年は紅組の勝利だった。

それにしても、こんな研究をされている方達がいることは知らなかったが、科学的に解析し、統計に基づく話だ、信じて良さそうだ。

それほど赤が有利なら、今度、もし240グループのユニホーム等を製作する機会があれば、ぜひ赤を基調にしたいものだ。

コンテスト時に私も赤シャツでも着て臨もうかなと言ったら、SXBに赤いチャンチャンコは、遠い遠い昔のことだろうとひやかされた。(笑)